

暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして

みんなが



たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 農田みち

市会議員控室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp



国民平和大行進

東京～広島

7月7日

川西～宝塚まで

6月議会「市の財政の考え方」で討論

「基金減少」の正確な説明を

市役所の仕事は「憲法」の具現化 意図的広報やめ公明正大に

川西市はH25年度の一般会計が約47.2億円当初予算と合わせ約95.0億円規模で運営されています。これらがむだなく、公明正大に情報が公開され、住民の福祉向上に使われているか。6月議会

で私(黒田)は、財政の状況、予算執行の優先順位、情報共有や広報のあり方、説明責任を果たすよう求めて討論しました。

1 週間後の「予算修正」?
まず取り上げたのは、財政計画のずさんさ。H25年(2013年)3月末の基金残高が、昨年11月26日の議員協議会の「中期財政収支計画」で約41億円と説明されていましたが、わずか数ヶ月後の

3月予算委員会ですら約20億円に修正。20億円もの差異が出ました。
市の広報誌6月号「H24年度決算見込」の記事ではH25年3月末基金残高は64億9000万円と記載されています。

その違いはなぜか、なにが正しいのか。
また、3月末に審査を終えたばかりのH25年度予算を4月8日付で「収支不足が拡大する」との理由で、約4億円の執行節減の部長通知を、さらに6月議会では職員給

議案が提出されました。
なぜ、20億円も減少?
H25年3月末の基金残高が数ヶ月でなぜ20億円も減少したのか。市は川西病院の未返還分3億円と国民健康保険事業への繰入れ2年分4億6000万円を要因としていますが、これらの事業

経営の大変な状況は織り込み済みはず。もし、見込んでいなかったなら見通しが甘過ぎです。
また、予算の不要額8.10億円を執行する額に組み込み「基金が枯渇する」材料にする一方、市民に対して

「アステ川西管理会社」への経営支援総額約15億7000万円の説明は一言も行わないなどは大問題です。
市税収入、本当は横ばい?
「人口減少や高齢化の影響で市税収入の減少が続く厳しい財政状況」というのが市の常々の説明で、福祉削減の理由にもなっています。

しかし、この間の市の人口・市税収入は共にほぼ横ばい。市の1人当たり住民税は全国787自治体中121位で上位にあります。(全国都市財政年報2011年)
市の財政逼迫の要因は、中央北地区開発などの借入金返済ですが、これは市民のせいではありません。
予算の組立て・執行は市が行うものであり「財政が厳しいから」と市民に負担を押し付けるのは本末転倒。

「生活保護」を攻撃するな
6月の広報紙では、「生活保護や福祉に係る民生費の増加が著しく、10年前と比べると約60億円増加している」と記載。「生活保護の増加」のように記されています。

民生費約60億円増加の内、生活保護費約15億円、後期高齢者医療負担金約13億円などですが、「冷蔵庫が空っぽで餓死」という悲しい事件が起

こつている折、わざわざ「生活保護」だけ特記する必要はありません。民生費(社会保障費)の増加も、国・県の負担金(子ども手当は約90%なので)に対して、生活保護費は75%(以前は80%)と低く、市独自の負担が増加しています。

市は、国の責任を明確にし、国庫負担金を減額させない事、十分な交付金措置を行わせることに努力すべきです。負担金だけでなく昭和59年度ベース比で9億円もの減額です。

自治体の自主権を取り戻そう
小泉構造改革時、「官から民へ」が加速させられ、夕張市をターゲットにして「赤字再建団体」になってはならない。キャンペーンが展開され「指定管理者制度」導入や自治

体病院の廃止・民営化が一気に進められました。H19年度には「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の制定、健全化判断比率が公表されるようになりました。

指標にしばられ、「自治体独自のサービス」が提供しにくい、まして市が行う事業の優先順位が「アステ管

理会社支援」「中央北地区開発」では硬直した財政運営を余儀なくされるのは当たり前です。
本来の自治体としての役割を明確にすること、市として、国の責任を堅持・拡充させることを追及することが必要であることを求めました。

住民の生活実態に寄り添い、住民の想いや願いがかなう市役所に、公務員として「憲法遵守」の立場で働きがいをもって職務に当たれる情報共有を、と強く求めました。

黒豆の声

暑い暑い選挙戦
候補者カーや政党カーに乗って訴える

川沿いで話し始めると
出て来てくださったご婦人
じつと耳を傾けて
話しのフレーズが終わるたび
拍手をしてくださる

話し終えると駆け寄ってきて
「涙が出てくるよ・・・」
必ず入れるからね

絶対入れるからね
絶対対入るからね
「ありがとうございます」
抱きしめる肩が震える

「主人にも入れるように言いますから・・・」
車が去るまで大きく手を振ってください

ぶれない政策を訴えて
地域の声を胸に刻み
エネルギーを蓄える
「ブラック企業」の名ばかり

店長
「残業代は?」って聞いたら
『年俸制』って言われた。
訳わからんわ・・・」

30年元氣印だったのに不整脈でひっかかったという
がんばっている若者を使い捨てにするな

ピラを渡して
怒り・憤りの声を心に刻む
戴いた1票1票の重みをしつかりと受け止め

全力で取り組む決意
人間を取り戻す一歩を

共産党大躍進 8氏が当選

比例515万票で5議席

暴走に立ち向かう決意新たに

参院選の結果、日本共産党は比例代表で515万票を上回る得票を得て5人が当選、選挙区でも東京、大阪、京都で議席を獲得しました。非改選の3議席とあわせると日本共産党は11議席になり、日本維新の会を上回り、参院での議案提出権を獲得しました。支持し

ていただいた方、雨のなかも猛暑のなかも奮闘された方に、お礼申し上げます。選挙の結果、自民、公明の与党は参院でも過半数を超えませんでした。安倍晋三政権の暴走に

正面から立ち向かい、公約実現のために力を尽くす決意です。

対決し対案示す党として

参院選での日本共産党の躍進



	今回(2013年)		2012年総選挙		2010年参院選		2009年総選挙	
	得票数	率	得票数	率	得票数	率	得票数	率
日本共産党	5,154,055	9.7	3,889,159	6.1	3,563,557	6.1	4,943,886	7.0
自民党	18,460,404	34.7	16,624,457	27.6	14,071,671	24.1	18,810,217	26.7
民主党	7,134,215	13.4	9,628,653	16.0	18,450,140	31.6	29,844,799	42.4
公明党	7,568,080	14.2	7,116,474	11.8	7,639,432	13.1	8,054,007	11.5
みんなの党	4,755,160	8.9	5,245,586	8.7	7,943,650	13.6	3,005,199	4.3
日本維新の会	6,355,299	11.9	12,262,228	20.4	-	-	-	-
生活の党	943,836	1.8	-	-	-	-	-	-
社民党	1,255,235	2.4	1,420,790	2.4	2,242,736	3.8	3,006,160	4.3
みどりの風	430,673	0.8	-	-	-	-	-	-
合計	53,229,612	100.0	60,179,888	100.0	58,453,437	100.0	70,370,255	100.0

注：選挙区と比例代表の「合計」は、上記の主要政党・無所属のほか、その他の政党・諸派を含む。

国民にも警戒感
しかし、安倍自民党がこれらを進めようとしている理太平洋連携協定(TPP)、社会保険増徴、原発再稼働と輸出、憲法改悪の動きなどは、すべて国民の敵

"自公圧勝・ねじれ解消"というが...

安倍首相は会見で、「国民との対話を怠り、改革から逃げる自民党へ逆戻りしたら、国民の信頼は損なわれ、次の選挙で09年以上の大敗を喫することになる」と述べざるを得ませんでした。

その一方で、23日から日本の代表が参加するTPP交渉について

自民の争点隠し
しかし、忘れてならないのは、安倍首相が選挙戦で、もっぱらねじれ解消とアベノミク

だねたわけではな。首相は経済のほかに十分に語らなかつたし、投票率も振るわなかつた(朝日)という指摘が出るのは当然です。

なにより、民主党が壊滅的な惨敗で、「二大政党づくり」が崩壊し、維新、みんななど自民党の補完勢力が得

国民の声を政治に反映させる。日本共産党の新たなたたかいの始まりのときです。

(中相良一)

国民とのねじれは激化

しい反対の声が上げられているものばかりです。自民党政治と国民世論の「ねじれ」は、解消されるところか激しさを増しています。

選挙中も各種世論調査で安倍内閣支持率が継続的に低下したことにも、国民の警戒感の深まりが示されています。

「ねじれ解消」論に同調してきたメディアからさえ、「国民は政策を白紙委任したわけではない」(毎日)、「有権者は日本の針路を丸ごと安倍政権にゆ

票を減らす一方で、「自共対決」を掲げ、すべての重要政策課題で自民党との正面対決と抜本的対案を示してたたかった日本共産党が改選議席を増倍以上させ大きな躍進を遂げたことは、国民の厳しい抗議の意思を示しています。

マスメディア関係者からは、「中途半端な野党は消え、筋金入りの本物が生き残る時代だ。自民党の一強・一弱なことが伸張した一方、共産党が伸びた。二極化の始まりだ」という声も寄せられています。

が、安倍政権の暴走にひるむことなく立ち向かい、経済政策でも、原発や憲法問題でも、抜本的な対案を示したことが国民に支持された結果であるのは明らかです。投票日に各マスメディアがおこなった投票所での出口調査でも、「政権批判票の受け皿」として日本共産党が有権者に評価されたことが浮き彫りになっています。

安倍政権の監視と運動を
自民党や公明党は今回の総選挙

在衆参の「ねじれ」を解消する選挙と位置づけましたが、もともと衆院での3分の2を超す議席自体、大政党に有利な小選挙区制でゆめられた「虚構」です。参院選での自公の議席も1人区で議席を獲得したことが影響しています。

衆参で「ねじれ」は解消しても、国民の意思と国会の議席のねじれはいっそう大きくなっています。安倍政権の監視を強め、暴走を許さない国民のたたかいが、これからの重要なことになりま

新しい視点 展望しめす

をお読みください

しんぶん 赤旗

お申し込みは 黒田みちまて (TEL&FAX 790-3056)

日刊誌●月3,400円
日曜誌●月 800円